2018年9月15日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第25回）

**≪ナチケーターの３番目の願いとヤマの対応（第２０節～第２１節）≫**

カタ・ウパニシャッドの話を続けます。前回は第２０節～第２１節まででした。第２０節の内容は何でしたか。それはナチケーターのヤマへの質問であり３番目の願いでした。

その質問とは、死んだ後の人間の状態について死後に存在し続ける部分があるのかどうかということでした。そのことについて大きな混乱や疑いがありますから、死神ヤマからそれを聴きたいとナチケーターは願いました（第２０節）。

質問には浅い興味からの質問と深い興味からの質問とがあります。興味がありますが答えはそれほど聞かなくてもかまわない、答えはあってもなくてもよいというのが浅い興味の質問です。一方、絶対に答えを聴きたいという真剣なものが深い興味からの質問です。

ナチケーターの質問はとても大事であり深いテーマですから、ヤマはその質問が浅い興味によるものか深い興味からのものか、すなわち、ナチケーターの「やる気」を最初に確認しようとしています。

ナチケーターはとても若く本当は子供ですね。子供ですから周りの人から聞いてただ興味を持っただけかもしれないので、深い興味からの質問ではない可能性があります。しかし、この質問のテーマの内容はとても**深く**、**複雑で**、**精妙で**、**難しい**です。人間よりレベルが上の神々でさえ、難しくて分らずこのテーマについての疑いがありました。

ナチケーターは人間です。それにとても若い方です。神々さえも疑いを抱いたテーマですから、若いナチケーターにこのテーマの内容を理解することは難しいはずです。ヤマは願いをかなえると約束しましたからそうしなければなりません。そこでヤマはその願い（質問）をやめて別の願いに代えてくれるように頼みました（第２１節）。

この質問の答えを理解するには、「やる気」だけではなく「準備」も必要です。ヤマが質問に答えても「準備」がなければ理解することができず、ヤマの言ったことは無駄になる可能性があります。この２つの原因からヤマはナチケーターに別の願いを提示しています。

次の第２２節を理解しますと分りますが、ナチケーターは普通の人ではありません。ナチケーターの興味は浅い興味ではなく深い興味です。本当に知りたいと願っています。それではその第２２節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２２節≫**

***devairatrāpi vicikitsitaṁ kila tvaṁ ca mṛtyo yanna sujñeyamāttha；***

***デーヴァイラットラーピ　ヴィチキッシタㇺ キラ　トゥヴァㇺ　チャ　ムリッティヨー　ヤンナ　スッギェーヤマーッタㇵ；***

***vaktā cāsya tvādṛganyo na labhyo nānyo varastulya etasya kaścit.***

***ヴァクター　チャースヤ　トゥヴァードゥリガンニョー　ナ　ラッビヨー　ナーンニョー　ヴァラストゥルィヤ　エータッスヤ　カシュチィㇳ***

［「カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説」のサンスクリット語のカタカナ表記をマハーラージが最初に少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える。以下の第２３節、第２４節についても同様です。］節の語を分けます。

前段の「devairatrāpi vicikitsitaṁ kila tvaṁ ca mṛtyo yanna sujñeyamāttha」は「devaiḥ atra api vicikitsitam kila tvam ca mṛtyo yat na sujñeyam āttha」（デーヴァイㇶ　アットラ　アピ　ヴィチキッシタㇺ　キラ　トゥヴァㇺ　チャ　ムリッティヨー　ヤット　ナ　スッギェーヤㇺ　アーッタ）になります。

後段の「vaktā cāsya tvādṛganyo na labhyo nānyo varastulya etasya kaścit」は「vaktā ca asya tvādṛk anyaḥ na labhyaḥ na anyaḥ varaḥ tulyaḥ etasya kaścit」（ヴァクター　チャ　アッスヤ　トゥヴァードゥリック　アニャㇵ　ナ　ラッビャㇵ　ナ　アニャㇵ　ヴァラㇵ　トゥルィヤㇵ　エータッスヤ　カシュチィㇳ）になります。

言葉の意味です。「デーヴァイㇶ」は「神々」、「アットラ」は「このテーマについて」、「アピ」は「～（さえ）も」、「ヴィチキッシタㇺ」は「疑いがありました」、「キラ」は「本当」、「トゥヴァㇺ」は「あなたは」、「チャ」は「そのことを言っています」、「ムリッティヨー」は「おお、死神」、「ヤット」は「なぜなら」、「ナ」は「～ではない」、「スッギェーヤㇺ」は「よく理解する」、「アーッタ」は「言いました」です。

「ヴァクター」は「先生」、「チャ」は「また」、「アッスヤ」は「このテーマの」、「トゥヴァードゥリック　アニャㇵ　ナ　ラッビャㇵ」は「あなたほどの先生はないです」、「ナ　アニャㇵ」は「別の（願い）はない」、「ヴァラㇵ」は「願い」、「トゥルィヤㇵ」は「同じレベルの（願い）」、「エータッスヤ」は「このテーマ」、「カシュチィㇳ」は「全く（ない）」です。

第２２節はヤマの頼み（３番目の願いの変更）に対するナチケーターの答えです。

「おお死神よ、あなたは神々さえもこれについて疑いがあったとご自分でおっしゃいました。そしてこれについて説明しても簡単には理解することができないとおっしゃいました」

ナチケーターは、このテーマの内容はとても難しい、分かりやすくないとヤマが言ったことに同意しています。そして次のナチケーターの言ったポイントは興味深いです。

「あなたと同じレベルの先生はあなた以外にはないです。だから、私はあなたから聴きたいです」

ナチケーターの理論は次のように展開しています。テーマの内容は難しく、説明してもすぐには分らないとあなたはおっしゃいます。ですが、あなたはとてもとても高いレベルの先生です。あなたと同じレベルの先生は他にいないです。だから、私はあなたから聴きたい。

**＜ヤマが特別な先生である理由＞**

先生のレベルについて、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワーミージ）の面白いエピソードがあります。或るとき、スワーミージはスワーミー・アドブターナンダジと一緒に、或る歴史的な場所に旅に出ました。

スワーミー・アドブターナンダジはまったく学校に行ったことはありませんでした。読み書きができずまったく無学の人（absolutely illiterate person）でした。スワーミージはその反対でお坊さんというだけではなく学者としてもとてもとてもレベルの高い方でした。たくさん勉強し知的なレベルがとても高い方です。

スワーミー・アドブターナンダジはその歴史的な場所のことに興味がありましたから、スワーミージにその場所のことを少し説明してくださいと頼みました。スワーミージは、「あなたは全然勉強してないですから、説明してもあなたには分らないでしょう」と答えました。

そこで、アドブターナンダジは冗談でこう言いました、「ああ、私は今分りました。高いレベルの学者なら、私が全然知らなくても説明できるはずです。それなのにあなたは私に説明することができない。あなたはそれだけの学者でしたか」と。

私（アドブターナンダジ）のレベルはもちろん小さい。そしてあなた（スワーミージ）のレベルは高いですけれども、学者ならばとても簡単な言葉で説明ができるはずです。それが学者の一つの特徴です。しかし、スワーミージは説明が難しいと言ったので、アドブターナンダジはそのような冗談で返しました。

ナチケーターは、ヤマに、あなたと同じレベルの先生はいないと言っています。なぜ、死神ヤマと同じレベルの先生がいないのでしょうか。ブラフマー、ヴィシュヌなどの偉大な神は別として、他の神々がいますね。太陽、海、風の神や、ヒンドゥー教の伝統的な神々もいます。それらの神々とヤマとは何が違いますか。

ヤマは死んだ後の存在が分っている神様です（参加者）。そうです。神々にはそれぞれの部門（ポートフォリオ、デパートメント、セクション）があります。水の神、雨の神、海の神、みな部門が違いますね。

ヤマは － 死ぬ、死後どのように進む、またどのように生まれる － それら全部を担当しています。ヤマの部門はとても大事な特別の部門です。皆さんの運命に関与しています。さまざまの部門がありますがその中でもとりわけ大事な部門ですね。

そしてヤマは普通の神ではないです。とても浄らかで霊的なレベルも高い方です。ヤマのレベルは普通の神のレベルと違います。そしてヤマが担当しているのは特別な部門です。それで、ナチケーターは言っています、「あなたは特別な先生です」と。

**＜「アートマンの知識」の願い＞**

「この願いより高い願いは他にない」（ナーンニョー　ヴァラストゥルィヤ　エータッスヤ　カシュチィㇳ）とナチケーターは言っています。

ナチケーターは死のことを知りたい、死んだ後の状態が何かを知りたいと願っています。この願いは、本当は、「魂」、「アートマン」についての質問です。ナチケーターは「この質問は一番偉大な願いであり、この願いに比べれば他の願いはすべて小さい」と言っています。

世俗的な学問、テーマ、質問がたくさんある中でなぜ「アートマンの知識」についての質問が一番高い質問なのでしょうか。言い換えますと、いろいろな知識の中で、なぜアートマンについての知識、魂についての知識が一番高い知識なのでしょうか。それを理解するために、ヒンドゥー教の社会に伝統的な「人生の４つの目的」があることからお話しします。

4 ends of Life（人生の４つの目的）

　　　　　　①Dharma（ダルマ）

世俗的　　②Artha（アルタ）

　　　　　　　　　　③Kāma（カーマ）

霊的　　 ④Moksha（モクシャ）

これらの目的のことはヒンドゥー教の聖典の中に入っています。インドの伝統的な文化を知りたいのなら「人生の４つの目的」を知らないといけません。「人生の４つの目的」の中の言葉「目的」はサンスクリットで表記しますとArtha（アルタ）です。これは表記上、②と同じです。しかし意味は全然違います。次に、人生の４つの目的、①～④を説明します。

①「ダルマ」は「道徳的なもの」という意味です。②「アルタ」は「富」です。③「カーマ」は「すべての欲望の満足」という意味で特別な意味は「肉欲」です。そして、④「モクシャ」は「解脱」です。①～③は世俗的、④だけが霊的というように２群に分けることもできます。

「ダルマ」を翻訳すると「宗教」（religion）ですが、前後関係でダルマの意味は「道徳的な方法」です。例えば、②「アルタ」について考えてみますと、あなたはお金を稼ぎます。生きていくには必要ですから。しかし、そのお金を稼ぐ方法が道徳的な方法か、非道徳的な方法かを見てください。「道徳的な方法」でお金を稼ぐことは問題がありません、大丈夫です。

この「道徳的な方法」が「ダルマ」です。このように人生の目的の一つの「ダルマ」には「宗教」という意味はないです。そして、「ダルマ」は前後関係で「道徳的な方法」、「価値的なルール・法則」という意味になります。

同じように③「カーマ」についても欲望を満足させるときの方法が道徳的な方法か非道徳的な方法かを見てください。人を愛したいという欲望が駄目ということではないです。それを満足させるための方法が問われるということです。この①～③はみな世俗的です。

これらと同じことをサンスクリットで**Abhyudaya（アッブーダヤ）**と言っています。アッブーダヤとは「世俗的な生活を良くする、生活のレベルを上げる」という意味です。例えば、食べ物、飲み物、服を良い種類のものにすることです。普通の人生ではそのように生活のレベルを上げるためにいろいろ行いますがそれは駄目ではありません。問題ないです。

ですが、一つだけ覚えていてください。それらを**ダルマでコントロール**してくださいということです。エチケット、モラル、道徳的な（ethical）方法で生活のレベルを上げるようにしますと全く問題ありません。

欲張ること、それが絶対によくないです。よく生きると欲張るとは違うことです。本当は必要ではない、よく生きるためにも必要ではないけれど、物をもらいたい、欲しい。そのように、欲張ることがありますとダルマの反対になります、非道徳的になります。ダルマでコントロールするように気を付けますと①～③がOKです。

このようにして人生の３つの目的を満足しますとその結果で楽しむことができます。しかし別の問題があります。反動、病気、心配、苦しみ、失望などの可能性があります。そして楽しみは永遠ではありません。消えます。楽しめますがそれは続きません。識別することができれば、人生の３つの目的を満足した後それを理解することができます。

その理解によって、次の目的④モクシャ（解脱）のやる気がそのときから始まります。３つの目的を満足しないとモクシャ（解脱）のやる気は出ないです。皆さん、人生の目的は、ヒンドゥー教の聖典の考えでは、天国に行くことではありません。

キリスト教、イスラム教、ユダヤ教（の目的）はみな天国です。それがヒンドゥー教との大きな違いです。それは興味深いことです。ヒンドゥー教の伝統的な**人生の目的はモクシャ（解脱）**です。天国に行くことではありません。

以前は、ヒンドゥー教にも天国に行くことを目的としていたときがありました。ヴェーダの一つの部分、カルマ・カーンダ（ウパニシャッド講話-21参照）がそれです。儀式を行って天国に行く、その目的がありました。

ですが、インドの聖者はとてもよく観察し、分析し、識別して次の結論を得ました、「天国は長い間楽しめるところではあるけれど天国も永遠ではない、また戻らないといけない。人生の目的はモクシャ（解脱）である」と。その理由は、解脱の経験がありますと「**最高の知識、最高の楽しみ、最高の自由**」ができるからです。

皆さんは「解脱」をイメージすることができますか。「束縛の反対」と言われてもよく分らないと思います。「解脱」とは「最高の知識、最高の楽しみ、最高の自由」を意味すると言われると少しイメージすることができるでしょうか。

「自由」について考えてみますと、例えば、監獄から出ることが一つの自由ですね。子供たちは親のコントロールから自由になることを待っていませんか。お母さんから「～しなさい」と命令されるのが好きではないですから。お金を稼げるようになると家族から離れて一人で住んでいませんか。一緒に住んでいますとコントロールが続きますから（笑い）。

そしてたくさんの人が一人で住んでいます。それも一つの自由です。とりあえず親から離れて一人で住んでいますけれど、結婚したくなりやがて結婚します。それは新しい束縛ではないですか（笑い）。再び自由の状態ではなくなります。その感じで（束縛を）続けています。最高の自由はできないです。

結婚して人はときどき離婚すれば自由ができると考えています。しかし、他にもいろいろな欲望があります。その**欲望の一つ一つがアートマンの鎖**です。お母さん、お父さん、旦那さん、奥さんからのコントロールがあるだけではなく、我々は**自分の欲望の奴隷**です。身体の奴隷、感覚の奴隷、心の奴隷です。その状態が続いている間、本当の自由はできません。欲望がある間、最高の自由はできません。

サムスカーラのことを前にお話したことがありますが覚えていますか（バガヴァッド・ギーター2016-03-05-大使館講話、ウパニシャッド講話-10参照）。サムスカーラとは深い傾向のことです。私は日本人、アメリカ人、インド人；私は女性、男性；私は仏教徒、キリスト教徒；私は主婦、主人；その一つ一つがすべてサムスカーラです。

欲望と同じように**サムスカーラもアートマンの鎖**です。それらがある間、本当の自由はできません。では、本当の自由はいつできますか。それは解脱するとできます。では、解脱はいつできますか。輪廻を続けていますと解脱はできませんが**輪廻を止める**と解脱ができます。

人は生まれる前があり生まれるとまた欲望が出てまた自由がなくなるということをくり返します。それでは最高の自由はできません。しかし、輪廻を止めますと解脱ができ、本当の自由、最高の自由ができます。それが解脱の一つの見方です。

解脱ができたら、最高の自由、最高の知識、最高の楽しみができます。そして、ヒンドゥー教の伝統的な人生の目的は「解脱」です。その目的と比べますと他はすべて低い願いであり低い人生の目的です。

それでは、「解脱」はどのようにすればできるでしょうか。ナチケーターはアートマンについて知りたいと願いました。**アートマンを理解**しますと解脱ができます。それがナチケーターの願いが一番高い願いである理由です。

解脱できますと「最高の楽しみ」ができます。その楽しみと比べると他の楽しみはとても小さいです。解脱できますと「最高の自由」ができます。その自由と比べると他の自由はとても小さいです。解脱できますと「最高の知識」ができます。その知識と比べると普通の知識はとても小さいです。

ナチケーターの最初の願いはお父さんの幸せのための願いでした。２番目の願いは天国に行くことでした。それによってナチケーターの「ダルマ、アルタ、カーマ」についての願いは満足して終わりました。そして今、ナチケーターは最後の願いをしました。それは「アートマンの知識」の願いでした。「解脱（モクシャ）」の願いです。

ナチケーターが「これが私の最高の願いです、これ以外の別の願いはありません」と言っている理由、「アートマンの知識」が最高の知識であるという理由が分りましたか。

先ほど、ダルマ、アルタ、カーマ（人生の４つの目的のうちの３つ）は、サンスクリットの言葉でAbhyudaya（アッブーダヤ）であるとお話ししました。**モクシャ**（人生の４つの目的の最後の１つ）はサンスクリットの言葉で**Nihśreyasa（ニㇶシュレーヤーサ）**です。

アッブーダヤは、普段の毎日の生活のレベルをよくすることでした。それによってたくさん欲望を満足させることができます。では、ニㇶシュレーヤーサは何でしょうか。ニㇶ（Nih）はニタラㇺ（nitaram）で「いつも」、シュレーヤーサ（śreyasa）は「幸福」（well-being）という意味で、ニㇶシュレーヤーサは「いつも幸福」ということです。

モクシャ（解脱）ができたら、その結果でニㇶシュレーヤーサ（永遠の幸福）ができます。例えば、身体が健康であっても病気になる可能性がありますので、それはニタラㇺ（いつも）ではありません。食事も快楽もみなそうではないですか。ニタラㇺではない。一時的で限度があります。モクシャはいつも幸福、**永遠の幸福**です。それが**人生の目的**です。

ナチケーターはとても若い方でしたけれど賢い人です。人生の目的がモクシャであることを理解していました。しかし、一般の人にその理解はないです。年齢を重ねてもその理解がない人もけっこういます。最後まで、できるだけ楽しみたい、快楽したいと思っています。次は第２３節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２３節≫**

***śatāyuṣaḥ putrapautrān vṛṇīṣva bahūn paśūn hastihiraṇyamaśvān;***

***シャターユシャㇵ　プットラパウットラーン　ヴリニーッシュヴァ　バフーン　パシューン　ハスティヒランニャマッシュヴァーン；***

***bhūmermahadāyatanaṁ vṛṇīṣva svayaṁ ca jīva śarado yāvadicchasi.***

***ブーメールマハダーヤタナㇺ　ヴリニーッシュヴァ　スヴァヤㇺ　チャ　ジーヴァ　シャラドー　ヤーヴァディッチャシ***

語を分けます。前段の「śatāyuṣaḥ putrapautrān vṛṇīṣva bahūn paśūn hastihiraṇyamaśvān」は、「śatāyuṣaḥ putra-pautrān vṛṇīṣva bahūn paśūn hasti hiraṇyam aśvān」（シャターユシャㇵ　プットラ　パウットラーン　ヴリニーッシュヴァ　バフーン　パシューン　ハスティ　ヒランニャㇺ　アッシュヴァーン）になります。

後段の「bhūmermahadāyatanaṁ vṛṇīṣva svayaṁ ca jīva śarado yāvadicchasi」は、「bhūmeḥ mahat āyatanam vṛṇīṣva svayam ca jīva śaradaḥ yāvat icchasi」（ブーメーㇶ　マハット　アーヤタナㇺ　ヴリニーッシュヴァ　スヴァヤㇺ　チャ　ジーヴァ　シャラダㇵ　ヤーヴァット　イッチャシ）になります。

それでは意味です。「シャターユシャㇵ」は、「シャタ」が「１００」、「アーユーシャ」が「生きる」で、「１００歳」です。「プットラ　パウットラーン」は、「プットラ」が「息子」、「パウットラーン」が「孫」で、「（たくさんの）息子や孫」です。「ヴリニーッシュヴァ」は「願ってください」、「欲しいなら言ってください」です。

「バフーン」は「たくさん」、「パシューン」は「家畜」で、例えば、雌牛、ウマです。畑のためにも必要です。「ハスティ」は「ゾウ」です。ゾウも重いものを運んだりハンティングのとき人を乗せたりとたくさんの仕事をします。「ヒランニャㇺ」が「」ですがそれだけでなく「ジュエリー（宝石類）」も含みます。「アッシュヴァーン」は「ウマ」です。

「ブーメーㇶ」は「土地」、「マハット　アーヤタナㇺ」は「大きな土地」、「ヴリニーッシュヴァ」は「願ってください」、「スヴァヤㇺ　チャ」は「自分も」、「ジーヴァ」は「生きたい」、「長生きしたい」、「シャラダㇵ」は「長い」、「ヤーヴァット　イッチャシ」は「あなたが欲しいのであれば」です。

全体的な意味は、「死神は言いました。ナチケーターよ、息子、子供、孫が欲しければ、また、その子供や孫の長生きを欲しければ、それから、たくさんの家畜が欲しければ、ゾウやウマもたくさん欲しければ、富、例えば、が欲しければ、大きな王国が欲しければ、あなた自身の長生きも欲しければ、それらを願ってください（それらをかなえます）」です。

ヤマはナチケーターに「何でも願いを言ってください。何でも願いをかなえます」と言っています。そしてヤマはたくさんの願いを提示しています。ですが、ヤマはなぜそう言っているのでしょうか。その目的は何ですか。

普通の人のことを考えてみてください。霊的な見方で考えずに普通の人の見方で考えてください。普通の人の願いは何ですか。神社に行ってみるとわかります。それがみな書いてあります（笑い）。絵馬に願い事を書いていませんか。絵馬にどんな願い事を書きますか。思い出してください。

（参加者）長寿、健康、商売繁盛、学業成就、家内安全、合格祈願、交通安全など。

結婚についてもありませんか。離婚についてはどうですか。それらはペアでしょ（笑い）。それから勝訴祈願（裁判に勝つ）などたくさんありますね。ヤマの提示はそれと似ていませんか。３０００年前も今と変わらないですね。長生き、息子・孫が欲しい、富が欲しい。似ていませんか。皆さんの欲望の対象はあまり変わらない（笑い）。

絵馬に願いを書いて置いてきますが本当に神様にお任せするほどの信仰を持っていますか。神様はかなえてくださる、かもしれないと考えていませんか。絶対に神様は願いをかなえてくださるという強い信仰を持っている人はあまりいないと思いますがどうですか（笑い）。

しかし、死神は自分で願いをかなえると言っています。願いがかなうことに疑いはないです。死神の力は強いですから間違いなく願いはかないます。絵馬ではないです。全部かないます。

絵馬のことを言いましたがインドでも同じです。ドッキネッショル寺院のマザー・カーリー聖堂に行きますと、その外壁に鉛筆でたくさんの願い事が書いてあります（笑い）。試験、結婚など、マザー・カーリーへのお願いがたくさん書かれてあります。

しばらくするとそれで壁が汚くなります。そのとき寺院ではホワイト・ウォッシュ（白塗り）します（笑い）。でもまた皆さんは書きます。どこでも同じです。普通は信じていませんが困ったときにお願いにきます。日本だけではなくどこでも同じです。

どうして神様に頼んでいますか。普通の人に言っても願いをかなえることはできません。できないですから神様に頼んでいます。お金がたくさんあってもかなえることができない願いもあります。それで神様に頼んでいます。

ここでは神が直接ナチケーターの前に現れて言っています、「あなたの願いを全部言ってください。一つだけでなく全部の願いを合わせてもいいですよ。そのリストがたくさんでもかまいません」と。

一つの願いの中にいくつもの願いが入っている例が『ラーマクリシュナの福音』（日本ヴェーダーンタ協会発行）の中にあります。或る求道者が母なる神にたくさん祈ったところ、母なる神は現れて「息子よ、何が欲しい。一つの願いをかなえます」と言いました。

その信者はこう言いました、「お母さん、私は孫と一緒に金のお皿で食事をしたいです」と。その一つの願いの中には、最初に「息子」、その後に「孫」、「自分の長寿」、そして「お金持ち」の願いが全部入っています。その信者はどれだけ頭がよかったことでしょう。

さて、死神ヤマがナチケーターに別の願いを提示した目的が何か、に戻ります。それは、ナチケーターにアートマンについて知りたいという願いを思いとどまらせる（dissuade）ためです。そのためにヤマはすぐに楽しむことをイメージできるものを提示しました。

普通で、解脱のイメージは出ないです。解脱のイメージとして、最高の楽しみ、最高の知識、最高の自由のイメージは出ないです。一方で、普通の快楽のイメージはすぐに出ますね、経験がありますから。ですから、提示された楽しみに応じるのは普通ではないですか。

絵馬に知識が欲しい、解脱が欲しい、神様に対する愛が欲しいと書いてあるのを見たことがありますか。ないですね（笑い）。普通の人にそのような興味はありません。解脱が欲しい、輪廻を止めたい、そのために絵馬を買う人はたぶんいません（笑い）。

聖典は、解脱の結果がとても大きなものだと教えています。ですが、どうして解脱のやる気が出ないのでしょうか。解脱の結果は最高の自由、最高の楽しみ、最高の知識ですけれど、そのイメージがないです。イメージがないですからやる気も出ません。

心はとても世俗的ですから世俗的なものが好きです。心の状態はいつも世俗的な状態です。ラジャス、タマスがいっぱいです。そしてラジャス、タマスのイメージが出ています。それがだんだん浄らかになりサットワ的になりますと、サットワ的なものが好きになります。

しかし、今の心の状態はとても粗大的なものです。ラジャスとタマスがいつも好きですから。サットワ的ではないです。それで解脱の興味もなくそのイメージも出ません。そのように、解脱の「準備」がないですからやる気も出ません。

ナチケーターにはその「準備」がありました。ナチケーターはとてもサットワ的な方です。ヤマが楽しみのものをいろいろ提示して誘惑したら普通の人はどうするでしょうか。ヤマは言っています、「解脱がいらないのならば、それをあげます」と。普通はそれが欲しくなります。

普通の人は、解脱の「準備」がないですから、心の「準備」がないですから、解脱のやる気もないです。やる気があってもそれはとても浅いものですね。次の第２４節では、ヤマの提示が続きます。それでは第２４節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２４節≫**

***etattulyaṁ yadi manyase varaṁ vṛṇīṣva vittaṁ cirajīvikāṁ ca;***

***エータットゥルイヤㇺ ヤディ　マンニャセー　ヴァラㇺ　ヴリニーッシュヴァ　ヴィッタㇺ　チラジーヴィカーㇺ　チャ；***

***mahābhūmau naciketastvamedhi kāmānāṁ tvā kāmabhājaṁ karomi.***

***マハーブーマゥ　ナチケータッストヴァメーディ　カーマーナーㇺ　トヴァー　カーマバージャㇺ　カローミ***

語を分けます。前段の「etattulyaṁ yadi manyase varaṁ vṛṇīṣva vittaṁ cirajīvikāṁ ca」は、「etat tulyam yadi manyase varam vṛṇīṣva vittam cira-jīvikām ca」（エータット　トゥルイヤㇺ ヤディ　マンニャセー　ヴァラㇺ　ヴリニーッシュヴァ　ヴィッタㇺ　チラ　ジーヴィカーㇺ　チャ）になります。

後段の「mahābhūmau naciketastvamedhi kāmānāṁ tvā kāmabhājaṁ karomi」は「mahā-bhūmau naciketaḥ tvam edhi kāmānām tvā kāmabhājam karomi」（マハー　ブーマゥ　ナチケータㇵ　トヴァㇺ　エーディ　カーマーナーㇺ　トヴァー　カーマバージャㇺ　カローミ）になります。

言葉の意味です。「エータット　トゥルイヤㇺ」は「同じような願い」です。ヤマは詳しくいろいろ楽しみのものをすでに提示しましたね。それと同じような楽しみのもので別の願いです。ヤマが挙げた以外にも楽しみの対象はたくさんありますから。「ヤディ」は「もし」、「マンニャセー」は「あなたに別の考えがあったら」です。

「ヤディ　ヴリニーッシュヴァ」は「もしあなたが決めるならば」、「ヴィッタㇺ」は「富」で、「チラ　ジーヴィカーㇺ」は「永遠に生きたい」ですが「長生き」のことです。

「マハー　ブーマゥ」は「大きな王国」（empire）（kingdomは小さな王国です）、「トヴァㇺ」は「あなたがもし」、「カーマーナーㇺ」は「他のたくさんの楽しみのもの、楽しみの対象」です。人間の楽しみだけでなく神々の天国の楽しみ（次の第２５節）も含まれます。

ヤマは言っています、「ナチケーターよ、もしあなたに、私がさっき言った楽しみ以外の願いがあったら、楽しみの対象があったら何でも言ってください。富でも王国でも長生きでも何でも願ってください。私はそれをかなえます」と。

ヤマは言うだけではなく、本当にそれらの願いを満足させる力があります。その力を持っています。ヤマは特別ですから。次の第２５節ではヤマが天国の楽しみについて説明しています。それは次回のクラスのときにお話します。

ヤマの提示は試験のようです。ヤマは、ナチケーターのアートマンについての知識を得るためのやる気がどれくらいあるか、ナチケーターの知力と準備がどれくらいあるか、それらを全部確認したいと考えています。

そのためにいろいろと楽しみのものを提示して誘惑しています。ここでは、ナチケーターが試されていますが、求道者にも解脱の前に同じような経験があります。解脱の前、神様からのいろいろな種類の誘惑（temptation）の可能性があります。次のクラスでお話します。

以上